

土井達也 ただいま活動中!

はつきり発言! ひっきり報告!

議員長員事
の議員委・幹
新会 運営会
維議 委員会
府・連 新
大阪 維新
大阪 総議大

土井達也Webサイト
http://www.tdoi.net/
118,826人

執筆・印刷:土井達也事務所
住所:〒599-0201 大阪府阪南市
尾崎町93-6尾崎山手ビル2F
TEL:072-471-7357
FAX:072-471-8004
E-Mail:t.doi@nifty.com

平成28年1月24日 熊取町長選挙

泉州南部地域の「大阪維新の会」所属の府議や市町議は、大阪府知事選挙が終わってから熊取町長選挙の投開票日まで、事あるごとに、熊取町へつめておりました。報告書の配布が遅れましたこと、お詫び申し上げます。

熊取町長選挙レポート

熊取町長選 擁立へ

19日告示、24日投開票の大阪府熊取町長選で、自民が地元支部からの申請に基づき、新人の清原猛志氏(69)の公認手続きに入ったことが12日、関係者の取材で分かった。自民府連によると、府内の首長選で自民が公認候補を擁立すれば、昭和46年の知事選以来、45年ぶりとなる。自民府連関係者によると、自民はこれまで清原氏の推薦を決定して、11日に地元支部が公認を申請した。自民推薦候補が大阪維新の会の公認候補に敗れた昨年11月の知事・大阪市長のダブル選などを踏まえ、地元中心に「自民をほっぽりさせて戦う」という声が上がったという。

府内首長選では45年ぶり

自民党が大阪府熊取町長選で公認候補擁立の手続きに入った背景には、憲法改正をめぐる安倍首相の狙いがあってから。しかし、大阪維新から「野合談合」の批判を受け、大阪に迫らなければならぬと、自民支持層の多くが大阪維新に流れたとされ、選挙への期待感を失う中、推薦より強

ダブル選では、大阪維新がいずれも公認候補を擁立したのに対し、代表の松井一朗知事が応援に

自民、対維新で公認候補

のストーリー性とも際立っていて、非常にレベルの高い選挙。事前には、「維新」対「自民」の大激突の様相だったのですが、「やっぱりこうなるよな」という現場感覚の通りの結果(下表)となりました。

熊取町長選挙 結果

藤原としじ	5,141	維新・新人
大屋ともひろ	3,553	無所属・新人
中西まこと	3,240	現職町長
清原たけし	3,017	自民・新人
鈴木みひる	1,879	無所属・新人

大阪維新公認が当選

熊取町長選 橋下代表退任後初

任期満了に伴う大阪府議、藤原敏司氏(63)から初めての選挙であり、自民党も府内の首長選で45年ぶりに公認候補を立てたことが

大阪維新が勝利

熊取町長選

「選挙」として見事だったのは、

2番目の

得票だった非常に

若い「大屋」さん。

公約集の

出来栄え、

「選挙」

大阪維新の新人 自民公認を破る 熊取町長選

今回は、田尻町・岬町で私の前に府議会議員をされていた「藤原としじ」さんの熊取町長選挙レポート。この熊取町長選挙は、記録づくめの歴史的な選挙でした。今年、町制施行65周年を迎える熊取町で、この65年間、5人もの町長に立候補者が出たのは初めての出来事。そして、大阪府内の首長選挙で、

藤原さん初当選

自民党が候補者に「公認」を出したのは、45年ぶりの出来事。大阪維新の会が、堺市よりも南部で本気の維新選挙を行ったのは、初めて。大阪維新の会が出来てから、橋下徹さんが参画しない維新選挙は初めて、というよう選挙でありました。

熊取町長に維新・藤原氏

「選挙」として

見事だったのは、

2番目の

得票だった非常に

若い「大屋」さん。

公約集の

出来栄え、

「選挙」

熊取町長選

大阪維新ダブル選に続き

初公人党投

松井一郎 大阪府知事 所信表明演説

この度、府民の皆様から再び負託をいただき、大阪府知事として、二期目の府政を担当させていただくことになりました。府民の皆様、改革を継続し一層の成果をあげてほしいという期待と、大阪をもっと豊かにしてほしいという切実な想いを受け止め、その重責を痛切に感じています。有言実行で、府政の推進に取り組んでまいります。

【今後の4年間でめざす大阪の姿】

一期目の4年間、私は、東西二極の一極を担い、世界の中で存在感を発揮する都市、大阪の実現をめざしてまいりました。二期目のスタートにあたり、その目標を、“副首都・大阪”の確立という具体的なミッションとして掲げ、大阪市はもとより、府内市町村や経済界とも力をあわせて、これからの4年間でその土台を築いてまいりたいと考えています。

日本は今、東京への極端な一極集中が進み、災害等の危機に対する脆弱性が重大な課題となっています。首都圏で大規模な災害が発生したとき、国家として機能が完全に停止してしまう可能性があります。いついかなるときも、政治、行政、経済を中断させないために万全の備えを整えることが必要です。東日本大震災を契機に、首都機能のバックアップの必要性が高まっていますが、未だに十分な対応がなされているとは言えません。

国家として「万全の備え」を一刻も早く進めるためには、平時から、経済中枢機能などを分散することで、災害に強い国土構造に転換するという発想が必要です。大阪は、多くの企業、マスコミや金融・証券、外国公館、そして鉄道や道路などの都市インフラが東京に次いで集積する西日本随一の都市であり、国の機関や企業等の中枢機能を担う、第二の拠点にふさわしい大きなポテンシャルがあります。民間企業の中には、リスクヘッジとして、東京本社に加え、大阪にも本社機能を新たに設ける企業も出てまいりました。平時にも非常時にも日本の未来を支え、けん引する

“副首都・大阪”の確立は、国家的な要請であると言っても過言ではありません。

国土軸を強化するリニア中央新幹線も、大阪が副首都となれば、東京・大阪間の早期整備は必然の要請となります。強力な国土軸と、それにつながる圏域内外とのネットワークの充実など、副首都にふさわしい交通・物流機能インフラの整備をめざしてまいります。

副首都にふさわしい統治機構のあり方についての議論も進めません。新たな大都市制度の設計図の再検討に向け、大阪市としっかりと手を携え、まずは、住民の皆様の見解を十分に伺ってまいります。並行して、二重行政の解消に向けた具体的な取組みを進め、今からできることは速やかに実現させていきたいと思っております。

こうした取組みを進めるため、大阪市と連携し、**年内に**「副首都推進本部」を設置し、“副首都・大阪”の確立に向けた検討や議論に着手いたします。リダンダンシーの確保により、強い国土構造への転換を図るとともに、“首都・東京”とともに日本の成長を力強く牽引するツインエンジンとなる“副首都・大阪”をめざし、中長期的なビジョンを策定してまいります。

【府政運営】

府政運営は、直面する府政の課題に対して、引き続き、「変革と挑戦」を基本姿勢として取り組んでまいります。既存の制度や枠組みにとらわれず、課題に正面から向き合い、府内市町村とも連携しながら、「成長と安全・安心のよき循環」による豊かな大阪の実現を確たるものとします。そのため、これまでの成果を礎に、スピード感と、府民や民間の目線での施策の立案、の2つの視点を徹底したいと考えています。

紙面の都合上、以下省略です。

昨年12月の所信表明演説ですので、「**年内に**」は、「平成27年」を意味しています。全文は、大阪府のHP、または、私のホームページ (<http://www.tdoi.net/>) に掲載しています。